

# アカデミア人材の評価についての検討状況について

2025年7月29日

イノベーション・環境局 基準認証政策課

# アカデミア人材の標準化活動の評価に向けた検討

- アカデミア人材は、その学識と中立な立場から日本型標準加速化モデルにおける**基盤的活動及び戦略的活動の双方を支えている**。他方、必ずしも**標準化活動の優先順位は高くなく**、大学における採用、人事評価、昇任等における取扱いにおいては、標準化活動が明示的に評価対象となっているとは言い難い。
- アカデミア人材の評価対象としての標準化活動の位置づけの向上・明確化を推進していくこと、加えて、標準化活動を客観的かつ適切に評価するため、**活動への参画状況や貢献度合いが適切な場において明文化された形で残されるようにすることが課題**。
- **アカデミア人材の標準化活動の評価制度等への取込のための働きかけ**を行うとともに、**標準化活動を可視化するための方策**を検討すべき。

## 【2025年度以降の取組】

- TC/SCの国際会議や国内委員会への参画、規格開発に係る節目節目での活動等を**アカデミア人材の評価に係る書面等に記載**することができるようにするための働きかけを行う。例えば、経産省が大学向けに示している産学官連携のガイドラインに、アカデミアの標準化活動の評価に関する観点が盛り込まれるようにすることを検討。
- 産業標準化事業表彰に加え、日々の標準化活動に取り組んでいる**アカデミア人材の貢献を見える化する**仕組みを検討。
- JISの規格文書に記載される規定値や試験方法等の根拠となる学術的な検証が論文化された場合、**規格文書中の参考文献として論文を出典とすることが可能であることを積極的に周知**。

## 基本政策部会においていただいたご意見（抜粋）

- 大学教員の標準化活動の評価については、**経済的に評価される仕組み**があると取組が進むのではないか。
- 規格の**レビュー論文を業績として評価することも考えられる**のではないか。
- 産総研では、**標準化活動も業績評価で論文や特許と同様に扱っている**が、①エビデンスがなく、**性善説で評価**している、②**大学の授業の自由度（ICT利用等）の低さ**が国際会議出席の妨げになっている、といった課題もある。

# アカデミア人材の標準化活動の評価制度等への取込

- アカデミア人材の貢献を可視化するとともに標準化活動に従事するインセンティブを強化するため、大学等において標準化活動を業績の項目とすることを慫慂。
- 早稲田大学理工学術院では、教員応募書類様式に標準化活動実績がある場合の記載例を提示するとともに、教員採用公募要領（雛形）にも国際標準化活動の実績の根拠となる書類の提出を求めることを検討してほしい旨の注釈。
- なお、産業技術総合研究所では、長期間継続した取組が必要となる標準化活動を論文や特許と同様に評価するため、規格発行時のみならず規格開発の途中経過やその役割等について、研究成果等の一部として登録できるようにしているほか、評価者に対して標準化活動において評価されるべき能力の内容を例示する等の見える化を推進。

## （事例）早稲田大学理工学術院の教員応募書類様式

### ● 国内外標準化活動の実績がある場合の記載例

（略）

【海外機関との共同研究等の実績、その他研究活動上特記すべき事項】

- ・ △△△△に関する研究について○○新聞にて特集記事記載（2013年＊月＊日）
- ・ ISO/IEC/ITU,JIS等の○○委員、○○委員長（2015年＊月～2024年＊月）
- ・ ISO/IEC/ITU,JIS等の○○委員、○○委員長としての「△△△△」の国際標準取得（2015年＊月～2015年＊月）
- ・ . . .

## （参考）産業技術総合研究所の取り組み

### ● 標準化活動に関する研究成果等への登録

研究成果発表データベースにおいて、国内外の標準化活動を登録可能とし、例えば、国際規格については発行時だけでなく、NP（新規提案）、DIS（国際規格案）等の途中段階の年月日や、当該規格に対するプロジェクトリーダー、コンビナー等の役割が登録可能。

● 標準化活動において評価されるべき研究者としての能力の内容例例えば、「研究テーマの計画・立案」同様、「標準化の計画・立案」を、「論文執筆」同様、「標準化の文書作成」を例示。

# JIS規格文書への学術論文の記載について

- JIS規格文書には、参考文献として学術論文を記載することが可能。  
JISの様式を定めるJIS Z8301に、参考文献の表記方法について原則及び規則が記載されている。
- 査読付きの学術論文を参考文献として記載することで、規格自体の信頼性や権威が向上し、規格の活用・普及に有用。  
実際にISOでは、Bibliographyとして学術論文が明示され、高く評価されている。
- JIS規格文書に参考学術論文を明記することで、アカデミア人材の標準化活動実績や規格文書への貢献を可視化し、業績として示すことができる。

## <原則及び規則> ( JIS Z8301 参照)

- 最終ページ（附属書がある場合は最後の附属書）の下の方または次のページに横線で区切り、“参考文献”の見出しを付けて記載。  
※ただし、JISと対応国際規格との対比表の附属書がある場合は、その附属書の前のページに記載。
- オンラインで利用できる参考文献は、その出典を特定し、検索に十分な情報を記載。

## <学術論文が記載された規格の例>

- JIS B1052-2（締結用部品－炭素鋼及び合金鋼製締結用部品の機械的性質－第2部：強度区分を規定したナット）29ページ
- JIS T0993-7（医療機器の生物学的評価－第7部：エチレンオキサイド滅菌残留物）72～83ページ